

天文 9

「令和6年の天文イベント」

天文担当 片野田 裕亮

■ 令和6年の天文イベント

令和6年が始まりました。昨年もたくさんの天文イベントがありましたが、令和6年も彗星や流星群などのさまざまな天文現象が期待されます。今回は、今年観察することができる天文イベントについて紹介します。

〈令和6年の天文イベント〉

1月18日	月面X観測条件良
3月18日	月面X観測条件良
3月末～4月	ポン・ブルックス彗星が接近
4月11日	火星と土星が大接近
5月6日	みずがめ座 η 流星群極大
8月12日	ペルセウス座流星群極大(好条件)
8月14日	火星と木星の接近
9月～10月中旬	紫金山・アトラス彗星が接近
11月15日	しし座流星群アウトバーストか?!
12月8日	土星食
12月14日	プレアデス星団食
	ふたご座流星群極大
12月25日	スピカ食

■ 火星と土星が大接近

4月11日の明け方3時50分頃に東の地平線から火星(1.2等)と土星(1.1等)が昇り始めます。2つの惑星は時間とともに接近し5時35分に最接近します(離角 $26'4$)。空が明るくなり始める前に、赤い火星と黄色味がかかった土星が大接近する様子を観察しましょう。



■ ペルセウス座流星群が好条件

三大流星群のひとつであるペルセウス座流星群ですが、お盆の頃に活動のピークがあり、観察しやすい流星群です。



オレンジ色や緑色などに変化する有色流星が多く、-4等級程の火球も出現します。最もよく観察できる極大日の8月12日は流星群のピークが23時となり、ちょうど月が沈むため、好条件で観察できます。11日の夜(22時30分頃月没)から明け方にかけてと12日の夜から明け方にかけてが最も多くの流星を観察できると考えられます。

極大日の前後1週間は流星を観察するチャンスです。街明かりの少ない安全な場所で、椅子に座ったり、シートを広げて横になったりリラックスした体勢で観察にチャレンジしてみましよう。

■ 紫金山・アトラス彗星が接近

この彗星は、2023年1月に発見されたばかりの彗星(C/2023 A3)です。10月13日には地球に0.47天文単位(地球から太陽までの距離の半分程度)まで接近し、10月の



〔写真は百武彗星 1996.4.7〕

日の出と日の入りの頃によく観察できると予想されています。また、明るさについては、最大で-5等級になるという予測もあります。

この彗星は、太陽に接近した後、宇宙空間へと旅立ち、今後再び戻ってくることはありません。